出来事の衝突と共有と連続

建築を出来事の集合であると考える、それは、人間のコンセプトや空間に影響を及ぼすのではなく、人生で起こる出来事との相関によって影響を受けるからである。コンセプトや空間は体験、行動、出来事の中にあらわるのではなく、出来事という状況の集まりによってあらわれる。そして、ここでは行動や出来事から考え、そこから空間が発生すると考える。

人が目的を持って行動するとき、目的以外の出来事も出る。その出来事というのは発見するため、人に新しい発見や体験を与えられる。

しかし、その発見的な出来事というのちは、始まりにたくなってきていると感じ。人は、目的を果たすために行動し、それ以外の出来事にとっては見えないもの。だから、目的以外の出来事を見逃すことも起こっていると考える。

そこで都市にある環境をそこで起こる出来事に分けて、用語を概念化し、概念を用いて、同時と様々な出来事が起こるようにする。

そうすることにより、偶然的な出来事が増える。これによりパリアーをなくし、また切り込む出来事からも解放されると思う。